

原油市場展望

2021年6月



調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

- ◆本資料は2021年5月31日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。
- ◆ご照会先: 調査部 研究員 松田健太郎 (Tel: 080-4176-4439 Mail: matsuda.kentaro@jri.co.jp)

- ◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます(右側QRコードからもアクセスできます)。新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。
<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>



本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

原油価格見通し：60ドル台半ばを中心に一進一退

原油

◆現状：60ドル台後半へ上昇

5月のWTI原油先物価格は、月前半に、米欧での新型コロナワクチン接種の進展などから経済正常化への期待が高まった一方、インドでの感染再拡大やOPECの需要見通しの下方修正が重石となり、65ドルを挟んで一進一退の展開。

月後半は、イラン核合意の協議進展により原油需給が緩和するとの思惑や、台湾などアジアでの感染再拡大を受けて一時60ドル近くまで下落。その後は、株価上昇によりリスク選好の動きが強まったほか、イラン核合意の協議進展には時間を要するとの見方が広がり、60ドル台後半へ上昇。

◆投機筋の買い越し幅は縮小

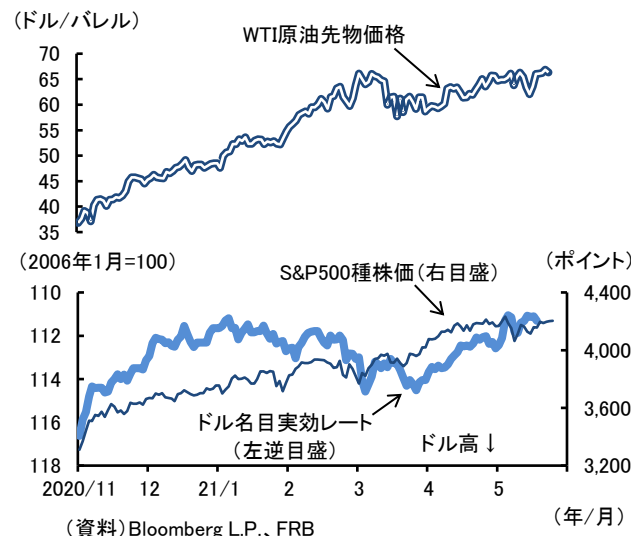
投機筋の原油先物買い越し幅は、イラン核合意の協議進展への警戒やアジアなどでの感染再拡大を受けて縮小傾向。

◆見通し：現行水準で推移

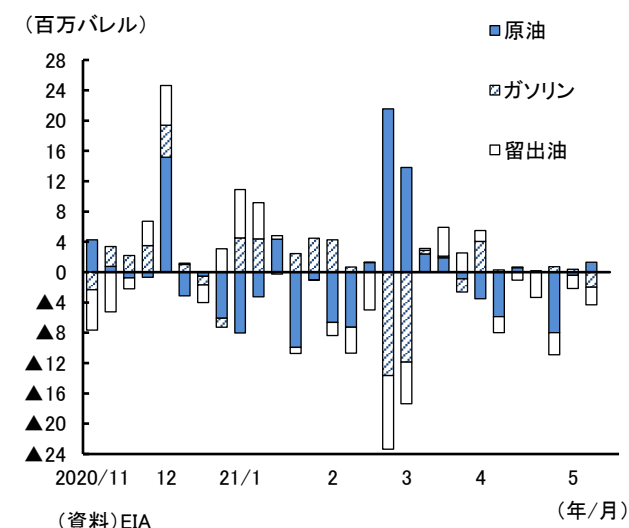
先行きを展望すると、米欧や中国を中心とした景気回復による需要拡大期待や、OPECプラスによる減産枠組みの維持が原油価格の下支えに作用する見込み。

一方、米国の原油生産の緩やかな持ち直しや、イランなど減産免除国での増産を巡る思惑、一部の新興国の感染再拡大による経済正常化の遅れなどが価格抑制に作用し、60ドル台の現行水準で推移する見通し。

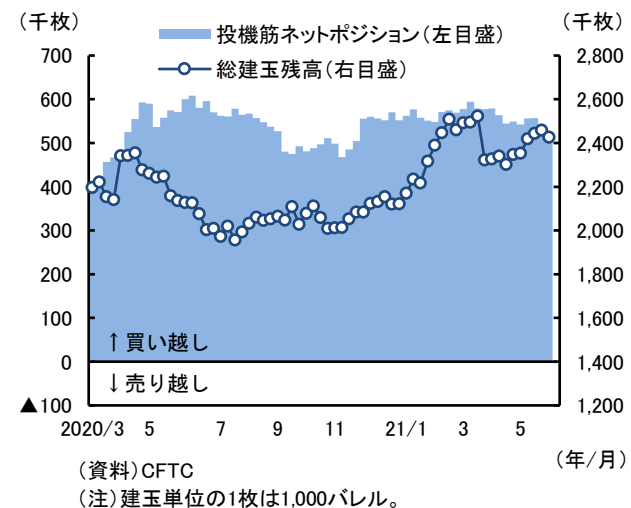
原油価格と株価・為替レート



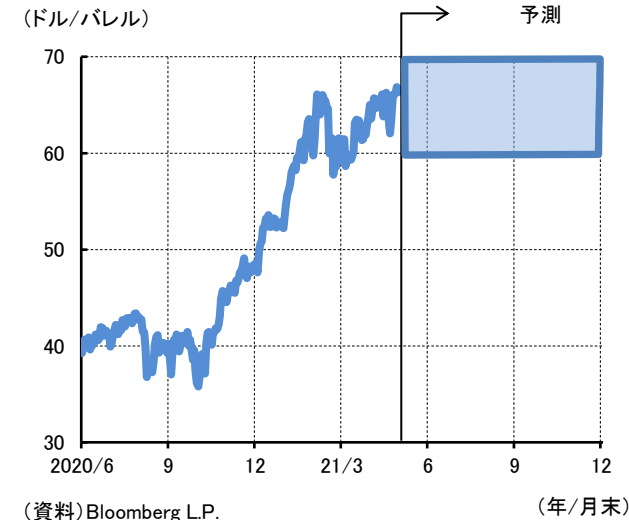
米国の原油・石油製品在庫(前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



トピック：米ガソリン価格は一時的に高めの水準が続く公算

◆ガソリン価格は約7年ぶりの水準

米国では、ガソリン価格が2014年10月以来の水準となる3ドル台まで上昇。背景には、以下の2点が指摘可能。

第1に、米国内の需要持ち直し。本年入り以降、新型コロナのワクチン接種が進展するなか、個人の外出機会が増加。実際、米国の自動車走行距離は、3月には概ね例年並みの水準まで回復。

第2に、米国の東海岸パイプラインの操業停止。5月7日に運営会社がサイバー攻撃を受け、メキシコ湾からの輸送が停止したことで、東海岸を中心にガソリン供給が一時的に停滞。

当面を展望すると、パイプラインの操業再開により、供給面からのガソリン価格上昇圧力は緩和。もっとも、需要面からの上昇圧力は強く、経済が正常化するなかで、5月下旬以降、本格的なドライブシーズンを迎えることから、夏場にかけては高めの水準が続く公算。

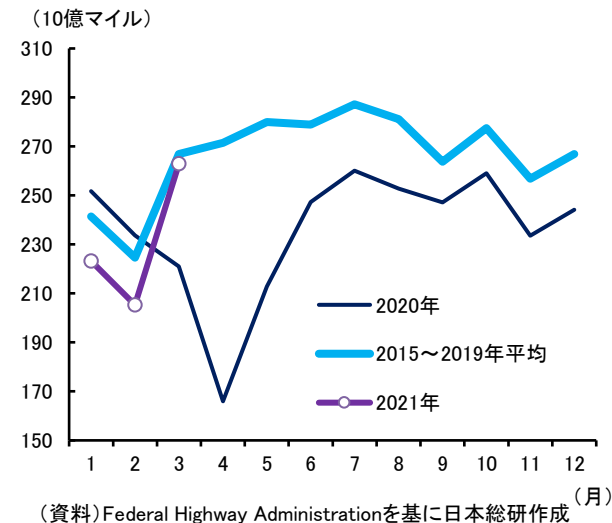
◆需要拡大も供給余地あり

今後、供給制約がガソリン価格を突発的に上昇させる可能性は小。ガソリン在庫は、2月の寒波による製油所稼働停止等の影響から減少したものの、例年並みの水準を維持。加えて、本年入り以降、ガソリン生産は順調に増加する一方、製油所の稼働率は8割半ばに抑えられており、供給余力は十分に残存。

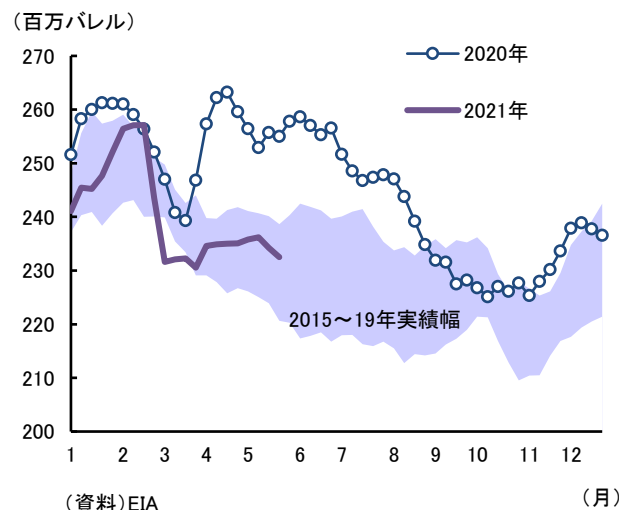
米国のガソリン価格



米国の自動車走行距離



米国のガソリン在庫



米国のガソリン生産と製油所稼働率

